

第3回「防潮堤を勉強する会」要旨

第二部 日時：2012年8月16日（木）16時00分から18時00分 場所 ワンテン大ホール

1. テーマ「浮上式防潮堤の検証」 講師：大林組 生産技術本部海洋土木技術部 副部長 小林 真氏
直立浮上式防波堤・下津港の事業紹介DVD

- 和歌山県は東海・東南海・南海地震により、確実に津波が予想されており、その対策として直立浮上式防波堤が計画されている。
- 津波防波堤を普段は海面下に収め、津波襲来時のみ海面に浮上、津波収束後は再び海面下に戻るといった直立浮上式防波堤の建設に取り組んでいる。
- 津波死ゼロのまちづくり直立浮上式防波堤は今後の海難事故防止に重要なものになるであろうと、国土交通省は認識している。

直立浮上式防波堤について

- この構造物は平常時海底面に構造物本体が格納されているため、航行の障害や潮の流れを妨げるといったことは一切ない。
- 陸上から鋼管に送気パイプを通して圧縮空気を送り込み、中に空気をためることで、浮力を得て浮上する。
- 防潮堤の浮上時間は最速1分で上げることができる。
- 和歌山で建設している最中。

2. テーマ「パターン別防潮堤の検証」

講師：日本大学理工学部社会交通工学科 准教授 岡田 智秀 氏
早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 佐々木 葉 氏

海岸構造物に極力依存しない海岸地域のまちづくり

- 日本では、人間が海岸線近くの危険な地域で暮らそうとするから、海岸構造物も海岸線に建設されている。
- ハワイでは海岸から家などを離して建築許可するので、日常の暮らしの豊かさと防災が重層的に兼ね揃えられている。
- 点ではなく面的なまちづくりを行なっていくときに必要である地盤沈下に対する事業は日本にない。

海岸防護施設の風景

- どこに構造物を作るか、といった点が景観には大きく関係する。
- 「海と生きる」といった気仙沼のテーマを多面的に考えていくことができればよいと思う。

3. 質疑からわかったこと

浮上式防潮堤について

- 津波や船舶の衝突による衝撃には十分配慮し、安全性を持たせている。
- 人件費含めて通常の1年間あたり700～1000万の維持管理費がかかる。

パターン別防潮堤の検証について

- 人間の生活空間は、海に近づくほど海岸構造物による防御への依存が大きくなる。
- 後ろから迫ってくる丘陵地と海の近さを考えると、防潮堤を窮屈に配置するのではなく、避難の

仕組みを工夫するほうが重要ではないか。

- 景観や生き方も財産なので、条例や市民憲章によるローカルルールをつくっていく手法もある。
-

<次回 第7回「防潮堤を勉強する会」> 9月3日（水）18:00～ ワンテンビル大ホール
気仙沼市議会 震災復興特別委員会の活動経過報告